

発展途上国における建設工事

[柿平 康伸 (専門分野：海外無償資金協力プロジェクト)]

FellowLink 倶楽部 2015/03/01 #20 に寄稿

私はゼネコンで30年間勤務し、主にODAの無償資金協力案件工事の請負者側の土木技術者として働きました。海外でモンゴル、ブータン、エジプト、南アフリカ、キリバス等、無償資金協力案件が実施されたほとんどの国での業務経験があります。また、国内では技術研究、品質マネジメントシステム(QMS)の品質管理責任者、購買業務等に携わりました。

2009年1月からJICAの国際協力専門員として、資金協力業務部設計・積算室というところに配属されています。海外は、2010年7月から2012年6月までの2年間ケニア事務所で、現在は2014年4月からセネガル事務所を拠点として活動しています。

セネガルでは、近隣諸国で施工中の無償資金協力案件の施工管理が適切に実施されているかどうかを確認する為に、当該案件の現地調査を実施しています。平均毎月1回、1週間から10日位の期間で、主に西アフリカの発展途上国へ出張しています。

発展途上国の建設工事では、その施工管理の方法が日本と比べて異なります。品質管理もそうですが、特に工程管理が大変です。例えば、現地会社は必要資材を計画的に搬入すれば良いものを、現場でのストックが無くなってから発注するというふうな状況です。必要とする技能を有する現地作業員も非常に少ない状態です。作業員の平均的な給料が日本人のその10分の1位ですから、それに見合っているとさえなくもありませんが。

また、テロとかエボラ熱等不測の事態が発生して工事が中断することもあります。このような条件下でいかに工事をスムーズに進めるかを提言し、手助けするのが私の業務です。

海外の生活ですが、ケニア事務所勤務時は首都「ナイロビ」に駐在しました。ナイロビは私が今まで行った発展途上国の中では一番生活条件の良いところです。まず、気候が良く過ごし易いことです。赤道直下の国とはいえ、標高の高い所(1500m位)に位置しており、1年中気温が20℃前後で、適度に乾燥していて非常に快適です。いろいろな人から「ケニアは暑くて大変でしょう?」と聞かれますが、聞かれるたびに同じ説明を何度も繰り返しています。また、他の発展途上国ではなかなか入手できず欲しい時は日本から持ち込まざるを得ない日本食材の味噌、醤油はもちろん、納豆、はんぺん、豆腐等ほとんど何でも手に入ります。

この約30年間、主に無償資金協力に関わる業務を経験してきました。この分野の、計画・設計、施工管理、購買及びQMSの運用実績もあり、多岐に渡る業務に対応できます。今後ともODAの建設工事の高度化、効率化に繋がる助言をし、JICAひいては国際協力に貢献できるよう努力するつもりです。

【参考】 JICA-国際協力機構ホームページ (<http://www.jica.go.jp/>)